



園だより

令和4年4月27日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育5月のねらい」

持戒和合



「経験を通して身に付ける」

園長 佐藤和順

新年度が始まり、あっという間に1ヶ月が経ちました。当初は、園児にも保護者にも不安があったことと思います。子どもは遊びの天才です。園で少しずつ好きな遊びを見つけ、楽しむ姿が見られるようになってきました。新しい先生やクラスにも慣れ、関わりも深まってきました。保護者の皆さまもご安心ください。

さて今月の保育目標は「持戒和合(じかいわごう)決まりを守り集団生活をしよう」です。「持戒」とは、決まりを守る、我慢をするということです。「和合」とは、和やかに力を合わせ、協力するということです。約束を守めることは社会生活の第一歩であり、それをもとにして集団の秩序が保たれます。社会生活の第一歩である園生活を楽しいものにするために必要なことを考えようということです。

子どもにとって初めての「社会生活の場」となる園生活には、約束や決まりがあります。自分の好き勝手にしては社会が成り立ちません。約束や決まりを身に付けるためには、まずは、簡単な決まりを守り、ほめてもらう経験が大切です。家庭においても、簡単な決まりを守ることから始め、守ることができたら、しっかりとほめてあげてください。成功体験が、約束や決まりを守ることの嬉しさにつながります。その次に、なぜ、決まりを守らなければならないのかを子ども自身が考え、判断することが求められる段階に移行します。例えば、滑り台を使用するためには並ばなければならないという決まりは、割り込むと危険であったり、ケンカになってしまったりします。並んで順番を守る方が、安全で快適ということ子ども自身が理解して、決まりを守るようになるのです。

また、年齢が大きくなると、遊びの中で、子どもなりのルールを考えるようになります。大人から見ると、無理じゃないかな?意味がないかな?と思うようなこともあります。子どもは一生懸命考えています。まさに学びの機会です。大人から見れば意味のないことであっても、子どもにとっては、自分で考えたとても大切な決まりなのです。言葉で決まりを伝える事は簡単ですが、経験が無ければ理解することは難しく、日々の遊びの中で繰り返し大切さを実感することで決まりを身に付けていくのです。家庭では、保護者が社会の決まりを守る姿勢、他人に迷惑をかけないように節度ある態度を示していくことでお手本となります。

現在、戦争が起り、痛ましいニュースを耳にしますが、「持戒和合」が広がることを願い、私たち教職員も精一杯子どもたちに向き合いたいと思います。

